令和8年度 第1回磐田市障害者施策推進協議会 会議録

【日　時】 令和8年8月19日（水）午後 1 時 30 分～午後2時50 分
【会　場】 磐田市豊田支所 大会議室
【出欠席】
協議会委員（名簿順）
出　席 ：中村千晶、鈴木眞喜子、髙橋隆代、鈴木なほこ、寺田敏雄、富田倫代、村松健次、
松本一男、唐木ななえ、井川淳史、織部恵理子、須田妃世李、鈴木香奈、土屋雅士
欠　席 ：飯田明弘
事務局 :佐原健康福祉部長、神谷福祉相談課長、角、阿部、酒井
伊藤こども未来課長、青木、杉山

1.開会
2.部長あいさつ
3.協議事項
（1） 第7期磐田市障害福祉計画及び第3期磐田市障害児福祉計画の実績報告について
（2） 第8期磐田市障害福祉計画及び第4期磐田市障害児福祉計画の策定について
4.事務連絡
5.閉会

会　　長：それでは、次第3の協議事項（1）「第7期磐田市障害者福祉計画及び第3期磐田市障害児福祉計画の実績報告について」事務局から説明をお願いします。
事 務 局：事務局説明　（第7期磐田市障害者福祉計画の実績報告について説明）
会　　長：御質問、御意見がありましたらお願いします。
委　　員：精神障がい者の方の社会的入院が増えているが、実際病院から地域へ戻られる方はいるのか。
事 務 局：市のサービス決定では、自宅へ戻られる方、グループホームへ入居される方はいるが、病院を退院して一人暮らしをする話はあまり入ってこない。
会　　長：御質問、御意見がないようですので次に移ります。つづきまして、「第3期障害児福祉計画の実績報告について」事務局から説明をお願いします。
事 務 局：事務局説明　（第3期障害児福祉計画の実績報告について説明）
委　　員：医療的ケア児を支援するコーディネーターとはどんな業務をする方なのか。また、7年度に人数が減っているのはなぜか。
事 務 局：基本的に医療的ケア児の生活をサポートする。例えば医療的ケア児の方が幼稚園に通いたい時には、関係機関のコーディネートを行う。人数については、事業所に確認した人数の合計のため、詳細はわからない。
委　　員：放課後等デイサービスは、実績も増えているが、計画は5年度から大幅に増えている。実績が計画を下回る中で、8年度も計画値を増やすのはなぜか。
事 務 局：この計画は令和5年度の時点での伸びを予測して立てたが、実際はそれほど伸びなかった。今後の計画では、実情に合うようにしていきたい。
委　　員：医療的ケア児コーディネーターについて補足をしたい。医療的ケア児の方の生活は、多職種の連携が必要であり、主治医や在宅生活では訪問看護、薬局、日中活動の事業所、ヘルパーの事業所、訪問入浴の事業所、通学していれば学校や先生など、その方を中心にチームを作ることが、コーディネーターの役割になっている。
会　　長：ほかに御質問、御意見がないようですので次に移ります。つづきまして、事務局から説明をお願いします。
事 務 局：事務局説明　（地域生活支援事業について説明）
委　　員：居宅介護や就労など、計画値より実績が大幅に多いところもあるが、サービスは足りているのか。使いたくても使えない方はいないか。介護ではヘルパーが足りなくて困っている。
事 務 局：サービス決定をしている側は、時々利用ができないという話は聞くが、そこまで不足している感じはない。ただ現場サイドでは不足はあるかもしれない。就労支援については、市内だけでなく市外の事業所も利用できるため、不足とは言い難い。
委　　員：計画を立てる上で、実情を把握してほしい。
委　　員：就労選択支援について、今年度計画では 42 人と計上している。市内にも1事業所ができたと聞いたが、この事業所の数で42人に対応できるのか。
事 務 局：42人の主な対象としては特別支援学校の生徒や通信制の学校を卒業した方を見込んでいたが、特別支援学校の生徒については、今年度は従来通り、就労選択支援を利用せずにアセスメントしていく。次年度以降、学校へ制度説明をしながら就労選択の利用を進めていく。

委　　員：特別支援学校の生徒が多く関わるので、しっかり整えてほしい。
会　　長：御質問、御意見がないようですので次に移ります。つづきまして協議事項2、「第8期磐田市障害福祉計画及び第4期磐田市障害児福祉計画の策定について」事務局から説明をお願いします。
事 務 局：事務局説明（第8期磐田市障害福祉計画及び第4期磐田市障害児福祉計画の策定について説明）
委　　員：就労継続支援B型の新設に関する問い合わせが増加とあるが、利用希望者からなのか、法人や事業所からなのか。
事 務 局：法人からの問い合わせが多い。総量規制の部分や手続きの方法についての問い合わせが、突出して多い。
委　　員：就労継続B型の利用者も事業所も多い。その辺りも計画に調整しながら盛り込んでほしい。
事 務 局：就労継続B型の事業所は市内市外に多いが、それぞれの事業所に特色がある。市内どの事業所も定員がいっぱいかと言われると、そうではないこともあり、定員の充足状況や実際の利用状況について事業所への聞き取りアンケート等も行っている。それらを分析し、計画値を定めていきたい。
委　　員：施設入所者の地域生活への移行について、入所施設は利用者にどこで生活したいか意向を確認しなくてはいけないと思うが、どのように確認しているのか知りたい。重度の方の意志は、何をもって意思とするのか、入所施設から情報はあるか。
事 務 局：施設を通じてアンケートで確認している。本人より家族の意向が強く出るのではないか。
委　　員：本人の意思を確認するのは難しいと思う。
委　　員：法律では本人がどうしたいのか、本人の意思を確認しなければいけないと決まっている。ご本人とご家族で違う場合もある。難しいと思うが、しっかり確認してほしい。
委　　員：心のサポーター養成研修についてだが、以前、ボランティアの方が本当親身になって考えてくれた。精神障がいの方にはとてもありがたいと感じる。
委　　員：意思決定支援の話は、考えていかなければならないと思っている。支援者もしくは家族の意思を簡単に出そうとせず、取り組んでいってほしい。
会　　長：ほかに全体通してでも、御質問、御意見がありましたらお願いします。
委　　員：計画・実績から障がいのある方が少しでも社会へ出ていけるように、国の施策だけでなく市も考えていることがわかり勉強になった。これからもお願いしたい。
委　　員：法人からの就労継続B型の問い合わせが多いと聞いた。異事業者からの参入もあると思うが、障がいのある方が利用するより良い企業であることを市も確認していただきたい。放課後デイの事業所は県の管轄だが、市でも対策をお願いしたい。
事 務 局：市が事業者に対する直接の指導は難しいが、再発防止に向けて、市内の事業者と皆で取り組んでいく。
会　　長：本日予定されている協議事項がすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しします。
事 務 局：以上を持ちまして、令和8年度第1回磐田市障害者施策推進協議会を終了させていただきます。